

樹木診断報告書

件名：大磯高麗 1 号線樹木健全度調査業務委託

場所：大磯町 大磯字山王後 地内

調査日（現地）：令和 7 年 8 月 18 日



カルテ凡例

記号等	内容
活力度（樹勢）区分	a（良好）からe（危機的状況）までの5段階評価 生理活動の健全度を判断するものであり、強度や危険度を評価するものではない
欠損	外傷、枝折れ痕、亀裂、切断、等を含め「欠損」とした
樹皮枯死	見た目では欠損していないが、樹皮組織が死んでいる状態 （新陳代謝による表皮に剝れ等は含めない）
空洞	材の腐朽により、幹や大枝が空洞化したもの
打音異常	木槌による叩き検査の音や感触により材に異常を感じたもの
淘汰枯	樹冠部の繁茂や枝の密生、日当たり不足等により、生産性の低い枝を自ら枯落す現象 （この場合、病気や害虫、外的要因によるものではないので生理的には健全である）
↑	回復傾向にある
↓	衰退傾向にある
→	欠損などの問題点において、回復に向かうか衰退に向かうか、現時点では判断が難しい状況のもの
W×L	W：被害部の幅、L：高さ（長さ）
W/C	W：被害部の幅、C：被害箇所の幹周囲 周囲に対する被害部幅の割合
芯達	芯まで達している
貫通	（空洞などが）幹の逆側まで到達している
（静観）（経過観察）	現状では特別な処置は必要ないと判断されるものであるが、問題点として記録し、意識しておくべき状況

カルテ凡例（精密診断）

記号等	内容
t/R率	検査部位断面における健全部と異常部の割合を表すもの t：健全部の厚み R：異常部及び健全部の厚みの和 （主に髄（芯）から樹皮までの半径で計測値を表現することが多い）
腐朽空洞率	4方向からの t/R率を使い特別な計算式により導かれた、断面の腐朽や空洞等の異常面積の割合
その他凡例	精密診断（腐朽診断）カルテの凡例を参照

樹木診断カルテ

調査シート1

No.	2	樹種	クロマツ
-----	---	----	------

調査日 令和7年8月18日
樹木医

概況

生育形態	単木	(単木 生垣 樹群中 列植 その他)
形状寸法等	樹高 (m)	19 m
	目通り周 (cm) (120cm地点)	155 cm

外観診断

活力度	b	(a良好 b概ね異常なし c異常があるが現状は静観 d大きな異常がある e危機的状況)
問題点の整理	処置方法	緊急性
樹冠部	緑量やや少ないが概ね異常なし	
大枝中枝	概ね異常なし	
幹上段	樹皮欠損大、剪定痕からの枯下がり (H10m地点付近) L65×W40/C103→重大な欠損と判断	芯材腐朽の精密診断が必要 早目に
幹中段	樹皮欠損(車両による外傷)大 (H350cm地点付近) L63×W30/C130 * 外傷が繰り返されている状況 欠損部逆側、下方に打音異常広範囲 (H0地点から370地点まで)	芯材腐朽の精密診断が必要 早目に
根元	欠損大、打音異常あり * 傾斜が強く、幹や根元の欠損等による折れリスクが高い	芯材腐朽の精密診断が必要 早目に
外観診断判定 (危険度)	1 健全 2 注意(処置)を要する 3 特に注意(処置)を要する 4伐採を要する	
判定理由	幹上段と中段、及び根元の欠損、さらに打音異常もあるため、急傾斜の樹形を支えるにはリスクが高過ぎると判断。	

精密診断

必要性	* レジストグラフ (必要・不要・念のため)		検査箇所	(1幹上段欠損部、2根元付近)
測定データ (別紙参照)	検査箇所1	腐朽空洞率：21.9% t/R率：①0.900 ②0.610 ③0.000 ④0.653	検査箇所2	腐朽空洞率：39.4% t/R率：①0.360 ②0.357 ③0.315 ④0.456

総合判定

(危険度)	1 健全 2 注意(処置)を要する 3 特に注意(処置)を要する 4伐採を要する
判定理由	精密診断の結果、幹欠損部周変では確実に芯材腐朽が進んでいることがわかる。根元の腐朽空洞化が見た目以上に進行しており、今後の回復は期待できない。
処置内容(案)	①伐採

腐朽診断カルテ(レジストグラフ:水平貫入)

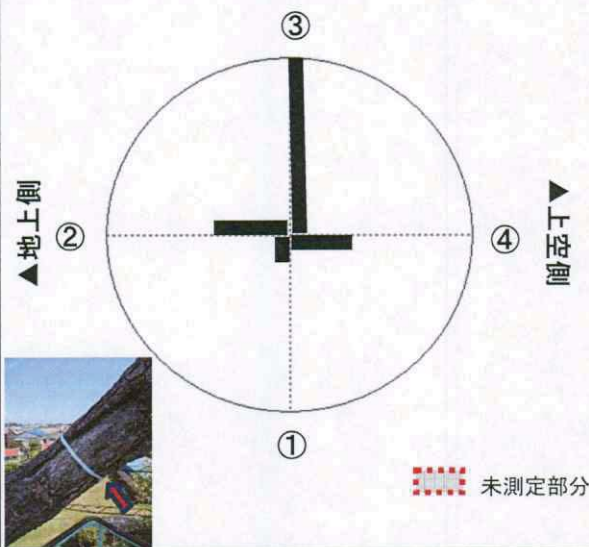
No.3

大磯町

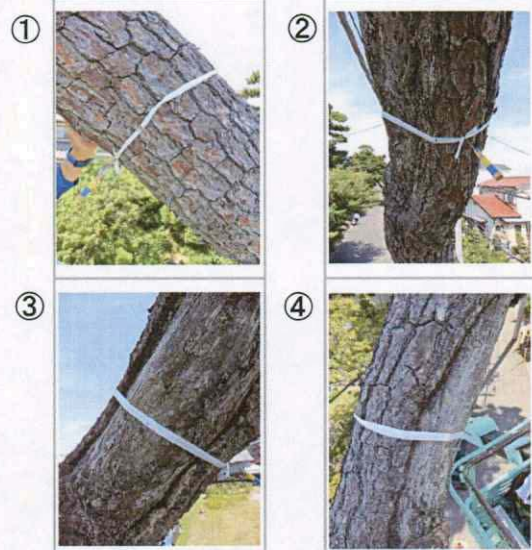
路線名	大磯高麗1号線(旧東海道)	樹木医名		診断日	2025年8月18日
樹木番号	クロマツ②	樹種名	クロマツ	樹高	19.0 m
				幹周	155 cm
				枝張	3.0 m

測定高さ	6.30 m	測定直径	↑ 29.0 cm ↔ 32.0 cm	機種名	レジストグラフIML PD600
------	--------	------	---------------------	-----	------------------

想定断面図 ※測定位置は車道GLより垂直高H=6.3m。



測定位置写真

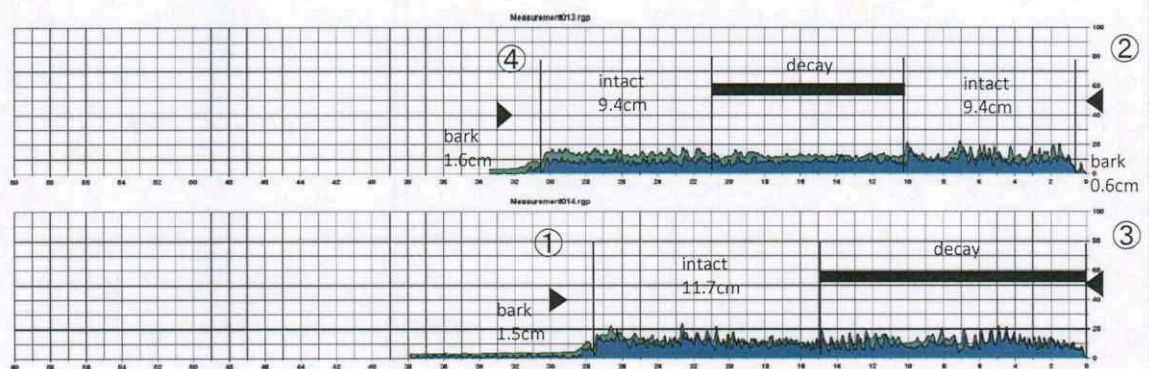


		各測定方向のt/R率の計算式 ※t/R率0.3未満は腐朽に関し注意が必要であり詳細の記載が必要																
t/R率	①	0.900	11.7	/ (	29.0	/	2	-1.5	)	②	0.610	9.4	/ (	32.0	/	2	-0.6	)
	③	0.000	0.0	/ (	29.0	/	2	-0.0	)	④	0.653	9.4	/ (	32.0	/	2	-1.6	)
腐 朽 空洞率 (%)	21.9%		空洞率計算式 ※空洞腐朽率50%以上は腐朽に関し注意が必要であり詳細の記載が必要															
			$\left(\frac{29}{29} \frac{-1.5}{-1.5} \frac{-0.0}{-0.0} \frac{-11.7}{-0.0} \frac{-0.0}{-0.0} + \frac{32}{32} \frac{-0.6}{-0.6} \frac{-1.6}{-1.6} \frac{-9.4}{-9.4} \frac{-9.4}{-9.4} \right)^2$															

所見

幹③側のほぼ全体が樹皮欠損腐朽している状態である。同被害部における腐朽空洞化は21.9%である。
現状、樹皮欠損部③側より芯部において年輪(晩材)部を残し早材が腐朽し軟化している状態である。
被害部が一方方向へ限定的に生じている為、外力により亀裂等が生じる可能性がある。

測定結果



凡例 ▶:データの終点 ■:腐朽(空洞)部 bark:樹皮 intact:健全 decay:腐朽(空洞) ◀:データの開始

腐朽診断カルテ(レジストグラフ: 水平貫入)

No.4

大磯町

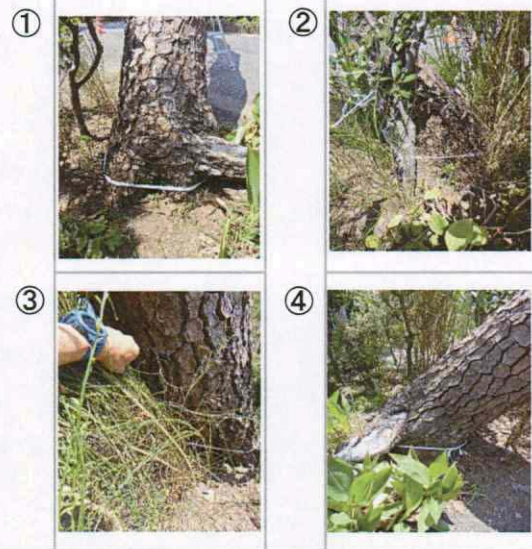
路線名	大磯高麗1号線(旧東海道)	樹木医名		診断日	2025年8月18日
樹木番号	クロマツ②	樹種名	クロマツ	樹高	19.0 m
				幹周	155 cm
				枝張	3.0 m

測定高さ	0.10 m	測定直径	↑ 62.0 cm ↔ 64.0 cm	機種名	レジストグラフIML PD600
------	--------	------	---------------------	-----	------------------

想定断面図 ※測定高さは根元地際よりの幹長。



測定位置写真

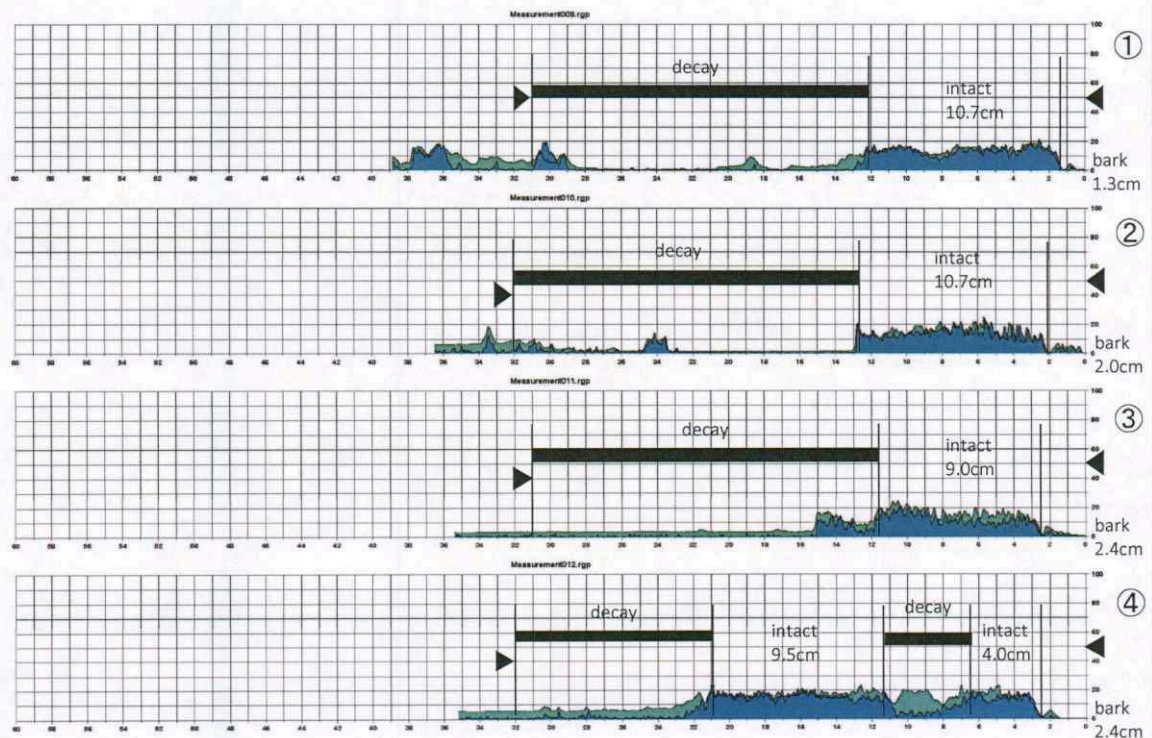


各測定方向のt/R率の計算式 ※t/R率0.3未満は腐朽に関し注意が必要であり詳細の記載が必要					
t/R率	① 0.360	10.7 / (62.0 / 2 -1.3)	② 0.357	10.7 / (64.0 / 2 -2.0)	
	③ 0.315	9.0 / (62.0 / 2 -2.4)	④ 0.456	13.5 / (64.0 / 2 -2.4)	

腐朽 空洞率 (%)	39.4%	空洞率計算式 ※空洞腐朽率50%以上は腐朽に関し注意が必要であり詳細の記載が必要			
		$\left(\frac{62}{62} \frac{-1.3}{-1.3} \frac{-2.4}{-2.4} \frac{-10.7}{-10.7} \frac{-9.0}{-9.0} + \frac{64}{64} \frac{-2.0}{-2.0} \frac{-2.4}{-2.4} \frac{-10.7}{-10.7} \frac{-13.5}{-13.5} \right)^2$			

所見
根元における樹体外傷は露出根の開口空洞腐朽のみであり、根株における他の外傷被害は確認されてはいない。
根元における腐朽空洞率は39.4%である。根元芯部を中心に心材部がほぼ四方に腐朽空洞化している状態である。
根株の空洞化が著しく直下の支持力は皆無の状態である。

測定結果



凡例 ▶:データの終点 ■:腐朽(空洞)部 bark:樹皮 intact:健全 decay:腐朽(空洞) ◀:データの開始

樹木診断調査

調査シート3

No.	2	樹種	クロマツ
-----	---	----	------

調査日

令和7年8月18日

処置処方(図示・写真)

